

場所をこれからもふやして体験をさせていただきたいというふうに思いますけども、もう一度教育長にお伺いします。

○平 進介議長 平田 裕教育長。

○平田 裕教育長 大変すばらしいご提言をいただいたというふうに思います。私も、子供を育てるのは、学校教育は半分しかないというふうに思っています。むしろ地域の教育力、特にコミュニティセンター化になったわけですけれども、その中でいわゆる社会教育、生涯学習にかかわる部分というのはこれから、今、地域学校協働本部というのを6地区つくっておりますけども、そこが中核となって地域と学校がこれからますます一体となってやっていかないと、いわゆる直接経験のない子供たちが育っていくというふうにも思いますので、やはりその地域の大人とのかかわり、小中学生と大人とのかかわり、あるいは年配の方々とかかわり、これをいかに場を設定していくか、そういう事業をつくっていくかというのがこれから大事な視点だというふうに私も思いますので、ぜひそのような方向で持っていきたいというふうに思っております。

○平 進介議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 どうもありがとうございます。

やはり長井市の場合は、一番大切なのは人だというふうに私は思っています。行政にしる民間にしる長井市を支えるのは人ですので、その人材育成には時間がかかる。そのためには、小さいころからいろんな分野で経験を積むことが大事だというふうに考えておりますので、今後ともいろんな面で長井市のほうで計画していただきながら総合計画が進むようにご期待申し上げます。私の一般質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○平 進介議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前 11時55分 休憩

午後 1時00分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○平 進介議長 次に、順位3番、議席番号10番、鈴木富美子議員。

(10番鈴木富美子議員登壇)

○10番 鈴木富美子議員 清和長井の鈴木富美子です。4月の長井市議会選におきまして2期目の当選を果たすことができました。市民の皆様にお礼を申し上げ、再びこの壇上に立つことの重みを改めて感じているところです。

働き方改革、女性活躍の時代とはいうものの、現状は果たしてそうでしょうか。子育てあるいは孫育て、介護においてはどちらかというとな女性の肩にのしかかり、仕事をやめるか、時間を制限した働き方に変えざるを得ないのが現状だと思います。私は、女性の視点に立ち、市民の皆様とともに長井市が住みやすく、住んでよかったと感じられる地域づくりを目指すとともに、長井市民お一人お一人が長井市を大好きになるような施策を考え、当局と力を合わせ邁進してまいります。

それでは、質問に入らせていただきます。今回は大きく2つの質問をさせていただきますので、ご答弁よろしく願いいたします。

第1項目は、働き方改革により職員の働く環境は整っているのか、お聞きいたします。

4月の人事異動で、統括監、戦略監は男性2人、女性ゼロ、参事については男性8人、女性ゼロ、課長におきましては男性21人、女性1人、主幹においては男性10人、女性5人と、女性の課長が1人、主幹は男性の半分の5人という人事異動がありました。ようやくこの議場にも女性の課長の姿が見られ、うれしく思います。このたびの女性幹部職員の登用について、市長のお考え、思いをお聞かせください。

人事異動から今月で約2カ月が過ぎ、女性管理職を登用したことで職場の雰囲気や仕事への取り組み、外部への対応などに変化が見られますか。見られるとしたら副市長はどのように評価しますか、お聞きいたします。また、女性の視点や観点を各課の中で生かし、男性職員とのバランスも大切なことだと私は思います。働き方改革における職員の配置にはどのように配慮しているのか、重ねて副市長にお聞きいたします。

現在の係長、係長以下の女性職員の人材育成をどのように考えているのか、副市長にお聞きいたします。また、管理職になると就労時間外の会議が多いと言われていますが、家庭での負担に配慮した対策などは考えていらっしゃるのでしょうか、あわせて副市長にお聞きしたいと思います。

次に、第2項目に入ります。

学びと交流の拠点施設、旧長井小学校第一校舎の現状と今後の課題についてお伺いをいたします。

2001年5月30日発行の長井市中央史談会30周年記念誌によると、長井小学校第一校舎の屋根のセメント瓦が傷み、ガラス戸の棧、外壁のスレート板が傷んで厄介視され始めたとき、当時の佐藤格校長先生、皆さんには格先生と呼びかけたほうがなじみが深いと思います。それによりますと、「第一校舎は残さなければならない、こんな立派な木造校舎はどこにもないと教育委

員会や市当局を動かし、平成元年度に大改修をしました。中略。幅3メートルの広い廊下、そして米松のまさ目の廊下の床張り、両側から上がって中段の踊り場から一本になって上る階段の広さ、貴賓室などなど、当時の校舎としては極めて立派な建築であった」と記されている。

その旧長井小学校第一校舎改修等工事が終了し、4月27日にリニューアルオープンいたしました。天皇陛下のご即位により、4月27日から5月6日までの連休期間はいろいろなイベントを行ったこともあり、1日平均600人のお客様が来館になりました。また、5月末現在では1万2,985人がおいでになったようです。夜も毎晩のように会議等で使用しておられるようで、午後9時を過ぎても電気がついており、校舎が息を吹き返したように感じられ、工事をしてよかったなと思っております。

このように、来館者や会議室を利用する人が多くいるにもかかわらず、玄関入り口の段差は、高齢者や車椅子の方などへの配慮が足りないのではないのでしょうか。今後どのように対応していくのか、するとすれば、時期はいつごろを予定しているのかを地方創生参事にお伺いいたします。

次に、駐車場についてお伺いします。

今現在、駐車場の表記がなく、お客様は戸惑っているように思います。今後、駐車場はどこにするのか、どこに整備するのかをお聞きしたいと思います。また、高齢者や体の不自由な方に対しての駐車場整備もあわせて考えているのかも地方創生参事にお聞きいたします。

外部のスレート板についてお聞きします。今までの外壁に当時のような色を塗装したのでしょうか、それともスレート板を交換したのでしょうか、あわせて地方創生参事にお聞きいたします。スレート板を交換したとすると、その理由は何だったのかもお聞きいたします。

最後になりますが、1階のくつろぎ・交流ス

ペースについては、放課後などは毎日のように高校生の勉強の場所だったり、小学生のお子様かけん玉をして遊んでいたりと、おじいちゃん、おばあちゃんの交流の場だったり、本当に微笑ましく思います。これからも多くの皆様に利用していただけるように、コーヒーなど軽食の提供はできないものでしょうか。観光客の市内への動線でもある施設であり、ちょっと一服できる、ちょっとおしゃべりできる、そんな時間をつくれる場所ができれば、もっといろいろな年代の方にも利用していただけたらと思います。有効活用できるように考えていくべきと思いますが、地方創生参事はどのようにお考えでしょうか。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

議員からは、大きく2項目、私のほうからは、最初の働き方改革について、職員が働きやすい環境は整っているかを問うということで、

(1)の4月の人事異動において女性管理職をふやしたことについての考えや思いはどうかというご質問をいただきました。

まず最初に、昨年度も、また一昨年度も鈴木富美子議員や五十嵐元議員からもいろいろご提言などをいただきましたけれども、私の個人的な考えとしては、女性を重視したり、男性を重視したり、そういう考えは一切ありません。あくまでもやはりしっかりとモチベーションを持って、しかも市の職員としての志が高く、また、さまざまなことの研さんを積んだ能力ある職員については管理職として働いていただきたいというふうに思っております。以前にもお話ししましたけれども、今、長井市役所は行一と行二ってあるわけですね。行一が事務吏員で行二は技術吏員ということなんです、いわゆる行

二は行二で、また技師長という管理職があるわけですが、行一でいえば、ご承知のとおり、今の年齢からしますと、65歳ぐらいから55歳ぐらいまでの年齢っていうのは、行一でも専門職である保健師さん以外は全て男性しか事務吏員は採用してこなかったんですね。したがって、今まで私が市長に就任させてもらって、13回目に人事を今回させていただきまされたけれども、その13年間で残念ながら女性の管理職は任命することができませんでした。

ただ、私も以前、職員として10年ちょっとおったんですが、同期に保健師さんが1名おりました。その方が、平成16年ごろでしょうか、17年ごろに管理職になられたんですね。女性、そのときは1人でした。非常に苦勞されたなあっていうふうに思っています、能力もあつた方なんです、結果として早期退職されたんですね。あとは、私の高校の同期なども以前に事務職で入っておったんですが、皆さん全て早期退職されました。

やっぱり働きづらいたらうなっていうふうには私は感じておりました、したがって、今回ようやく年齢的にも、確かに参事職とか統括監とか戦略監とか、同じ課長級の給料表を使っているんですね。6等級、以前は7等級まであったんです。7等級っていうのは部長級の給料表なんです。給料表が高くなればなるほど給与額は高くなるわけですけども、それを行革の一環で、もう今から17年ぐらい前でしょうか、部長職を廃止して課長職なんですね。その中で、少し管理職手当を厚くして、いわゆる横並びで管理職が30名、40名いますと、私とか副市長、教育長が幾ら頑張ってもしっかりと意思疎通図れないと。ですから、部門ごとの総務、厚生、産業、経済、建設あるいは教育委員会等々、部門ごとの参事職というのを置いて、また、参事職も連携をより深めるために、特命として戦略監であつたり統括監というのを置いたわけです。

そういった方々は、年齢的には管理職としても経験が豊富で、やっぱり議会での対応だったり、あとは予期せぬさまざまな市の危機管理的な部分も含めて管理職の中心として頑張っていたいただいています。

今回は、課長が初めて女性で誕生できたということで、非常に喜んでいますが、あと、主幹という管理職で、同給料表の範囲内なんですけれども、その方たちについては、先ほど言いましたように、女性の方が1人とかっていうと孤立しますので、能力ある職員は、男性もそうなんですけれども、孤立しないように5人の方を今回4人ですね、主幹職は。あと、主幹職、昨年1名おりましたので、今回課長になった職員も昨年は主幹として頑張っていたいただきました。

そんなことですが、やはり民間と比べれば、この山形県内では、私どもの地方自治体、市町村あるいは山形県というのは、男女の格差がない職場だと思っています。能力があってやる気があれば、また、いろんな困難な、あるいは新たな取り組みについていとわない、困難、大変だけでも、それももう甘んじてぜひやりたいと、市のために、市民のためにと、そういう方については、男性であろうと女性であろうと同じだというふうに思っています。

なお、今まで男女共同参画社会であったり、機会均等法とか、あと、働き方改革あるいは女性活躍社会みたいないろんなキャッチフレーズありますけれども、私どもとしては、まずは市の職員、市役所の組織そのものも、やはり民間にとっては一つの見本になるような、そういう女性がやっぱり輝けるような、あるいは女性の能力を引き出せるような、そういう組織のあり方を模索していかなきゃいけないと思っておりますが、詳しいことは、副市長にご質問いただいているようなので副市長に答えていただきますけれども、これからも今の50代以下、40代なんかは男性よりも女性が多い学年っていうのも

あります。

あと、1つ気になるのは、やはり地方公務員、国家公務員にかかわらず民間でもそうだと思うんですが、実は同級生とか同期っていう意識が非常に強いんですね。ですから、同期で自分よりあいつ頑張っているなど、あいつ俺より、何ていうんでしょうか、努力足りないぞという人たちがいらっしゃるわけですね、こういう社会ですから。そういう人たちがやっぱりきちんと評価できるような、そういう仕組みづくりも今、私ども地方自治体も頑張っていますし、また、本当に頑張った人間がきちんと働きやすい、そんな取り組みを頑張ってまいりますし、また、育休についても、以前もお話ししましたが、ようやく長井市でも、1カ月だけだったんですけども、育休をとりたいという男性の職員が申請がありまして、それは喜んでこういったことも進んでとれるようなそういう組織にしたいと思っておりますが、やはり仕事が山積みでありますけれども、この辺は働きやすくてやりがいのある、そして市民に信頼される、そんな市の職員であるように頑張りたいと思っております。ぜひ引き続きご助言をよろしく申し上げます。

○平 進介議長 遠藤健司副市長。

○遠藤健司副市長 鈴木富美子議員のご質問にお答え申し上げます。

ただいま市長からの答弁にもありましたが、女性管理職の人数は、昨年度の2名から今年度は6名にふえました。参考までに、管理職は47名、うち女性が6名、よって13%の管理職の比率というふうになっています。政府のほうでも、ポジティブアクション、男女共同参画社会の実現に向けての方針の中では、2020年までに女性管理職の比率を30%にしたいというふうな目標を掲げております。ただいま市長が申し上げたとおり、長井市の女性管理職が今まで少なかった背景には、過去の女性事務職の採用が少なかったというふうな必然的な理由がありました。

その後、女性職員の割合は次第に高まっておりまして、今年度の女性管理職の増加も同様に職務、そして実績を評価した結果による増加であるというふうに考えております。女性だからというふうな事情を考慮せずとも、政府の言うところの30%の管理職というふうな数字には、ほどなく長井市の組織もなっていくだろうというふうに感じております。

職場の雰囲気や仕事への取り組みに変化はあるかというふうなご質問であります。

人事異動によって、毎年、春であります、職員の配置が変われば、当然のことながら職場の雰囲気、そして仕事の面でも何らかの変化が生じます。特にこの4月から初めて管理職になった職員は、それぞれの職場でこれまで以上に意欲あるいは緊張感を持って取り組んでるというふうに見ております。男性、女性にかかわらず、管理職職員の業務に対する姿勢が、課内、部署内の部下職員にとっていい刺激となって組織全体の士気高揚につながるということが人事異動の一つの狙いでもあります。

女性管理職がふえました。女性ならではの視点、アイデアというのがよく社会的には言われますが、これからは、やはり職員一人一人が男性だから女性だからということにこだわることなく、市民の皆様へのサービスのあり方あるいは施策の構築を各自が意見を出し合って議論できる伸び伸びとした職場、仕事ができる環境づくりが大切であるというふうに思います。そうした各課での議論の中から、男性が女性が意見を出し合うことによって、外部の皆様、つまり市民の皆様へのサービスの質、特に女性に配慮すべきサービス等については、なおきめ細やかなものが生まれるというふうに思います。

以前、鈴木議員からは、1階の女性トイレにハンドバッグを置く場所もない、そういったご指摘をいただいて、わずかですが、改善させていただきました。そういったことをやっぱり気

づくのは、なかなか男性でなく女性の視点というのが必要であります。そういった面は、女性ならではのではなく、女性の市民サービスにとってよりきめ細やかなものを充実できることに結びつくと思います。

次に、職場の働き方改革における職員の配置にはどのような配慮をしているのかというふうなお話でございます。

職員の配置でございますが、庁内304人の職員がおります。これを人事異動する際には、前年度までの各職場の状況を、それぞれの課長から人事に関する配慮事項というふうな報告を出されます。まずそれが1つ。そこによって業務量に応じた人員の配置を基本としています。また加えて、どういった資質、どういったキャリアを持つ職員を配置するかについては、職員それぞれからも職場希望調書を提出させております。これは任意で提出させておりますが、この情報を集めながら職員の希望を取り入れ、適材適所、そして私どもの市役所の組織が機能するように条件を総合的に勘案して配置しております。

ただ、職場の現実としては、法の改正等によって新たなやっぱり事務や新たな事業が発生します。加えて、職員の産前産後休暇での職員数の一時的な減少、これは女性に限らず、先ほど市長が申し上げたように、男性の育児休暇というものも取得がこれからどんどん進むと思います。そういった要因も含めながら配慮しなければなりません、時間外の増加は一つの原因になっているのも現実であります。そういった場合でも、課内や係の間で業務や主任以下の職員の調整、課内の職員の配置については課長が主事、主任については任せられておりますので、そういった中で適正な職員の配置に努めているところであります。

一方で、職員の配置の上で、鈴木富美子議員の質問の趣旨からいけば、男女のバランスとい

うこともお考えになると思います。先ほど申し上げましたように、長井市の職員304人おります。うち男性が188人で女性が116人、それぞれパーセンテージにすれば61.8%と38.2%というふうな中で、女性の職員が決して圧倒的に少ないという状況では現在なくなっております。ですので、仕事についても、特に男性、女性というふうなことを、男性の業務だから女性の業務だからというふうな区別はせず職員を配置しております。

次に、ご指摘のあった働き方改革という面から考えますと、まずは制度面ですが、働き方改革法案の一連の中で、今年度からは超過勤務命令の上限が定められました。原則としては、月45時間以内、また、1年については360時間の範囲内で必要最小限度の超過勤務を命ずることができるというふうになっております。また、特に長時間の時間外勤務をした職員については、職場長の報告に基づいて産業医との面談指導を受けることとなっております。こうした制度はありますが、さまざまな要因で時間外業務が増大するようなことが起こった場合には、限られた人員の中でどう乗り切っていくか、具体的に、どうすれば時間外業務を減らせるかなどを考えると、これから職員全体の意識改革も含めて必要になってくるというふうを考えております。

例えば、私たちは、この仕事、この提出物をいついつまでにしなければならぬということ、おおむね人工、1人が何カ月かかる、何日かかるということを判断しておりますが、そうしたものはやっぱり重なるときがございます。そうすると、やっぱりじゃあ、時間外かと、時間外で頑張ろうと、一致団結してというのが今までの常でありました。ただ、これからは、そういった従来の業務のやり方、事務のやり方でなくて、時間当たりの、なかなか難しい言葉ですが、ホワイトカラーの生産性、これを上げる

こと、決められた限られた時間の中でどれだけの仕事をするか、これが重要であって、これを評価するような仕組みをつくるのが社会的に求められているということで、長井市も同様であるというふうに感じています。単なる短い時間でこなしてミスが出てはいけません。早く安く確実にと、そういった仕事の仕組みをそれぞれの業務の中で考えながら進めていかなければならない、そういう時代に来ているというふうに思っております。

これまで当たり前に行ってきた仕事の仕方を棚卸する、振り返る、そういったことを1カ月、半年、1年と積み重ねる中で、一気ではありませんが、少しずつその効果が出てくるというふうを考えて、結果、残業の時間が減った、有給休暇の消化率が上がったと、そういうふうな成果を求めていくことが必要であると思います。職員の配置につきましては、このように業務量を考慮して、どこの職場に何人配置したというところから、その配置の中でどのように業務を改善していくかについても検討を重ねながら、効率よく業務を行っていきたいというふうに考えております。

4つ目の、現在の係長もしくは係長以下の女性職員の人材育成は今後どのように考えていくかというふうなことであります。

重ねて申し上げますが、市では、毎年度、男女の区別なく職員の経験年数あるいは職務内容に応じた研修を全職員、順序よく適切な時期に実施しております。これからも継続してまいります。特に係長以下の職員については、多くの仕事、市民サービス部門、総務部門、教育部門、建設部門、福祉部門それぞれを経験させることを心がけておりますが、そういった若い職員は、同時に、結婚、出産、育児、子育てという大きなライフイベントと重なる時期にもなります。限られた時間の中で仕事の成果を上げて、家庭生活など仕事以外の活動も充実させるため

には、やはり働き方の研修も必要であると考えております。業務の手順をマネジメントして、集中するところは集中する、また、協働するところは協働する、短時間で目標を達成する、そういう働き方を男性、女性にかかわらず若いうちからしっかりと身につけることが必要であって、これは長井市組織全体の課題として今後取り組んでいきたいと考えております。

管理職の時間外での会議等々が多いその配慮ということでございますが、現在の管理職につきましては、男性の平均年齢が56.9歳、そして女性の平均が54.3歳、全体で56.5歳というふうになっております。この年代ですと、一般的な想定ですけれども、子育ては一段落はしています。ただ、一方で、高齢になった家族の介護というふうな家庭内での課題が出てくるのではないかと思われます。そういった家庭での事情が心配される管理職の世代ではありますが、仕事のほうに目を向けますと、職場ごとの事務事業や課題に対する取り組みの管理、部下職員の管理、そして育成など、そして就労時間以外の会議等が多くなることはやはり否めません。

まして、本日の山形新聞にもありましたが、日本の管理職の職員の平均寿命が他の先進国に比べて短い。その原因は、プレーイングマネジャーであるということがあります。長井市の管理職も全てプレーイングマネジャーで、各個人が業務を持って、あるいはプロジェクトを持っておりますので、やはりもう課長だから、管理職だから夜の会議は出してもらおうと、そういうふうなことばかり言っていられない状況になっております。やはり各課には補佐あるいは特定業務について決裁権を持つ主幹がおりますから、こういった職員の協力のもと、市民の皆様へのサービスを落とすことなく、また、市民の皆様の意見を聞くことができる夜間の会議あるいは市からお願いしております会合等には、業務を分担しながら出て管理職の負担を減らすことも

必要であるというふうに思います。管理職についても、それぞれが自分自身の生活、仕事のマネジメントをしっかりとしていくということが重要であります。

夫は仕事、妻は家庭といった時代ではないというようなことは、私たちよりも30年ぐらい若い世代は今すっかり定着して実践しているというふうに思います。それがいわゆるワーク・ライフ・バランスでのそれぞれの個人の生活、そして仕事の充実を目指すこれからの地域社会、日本社会のあり方だと思えます。こういったことを年齢層の高い管理職も、また、若い新採職員も一緒になって考えていく、そういった何でも言うことができるコミュニケーションがこれからの組織の活性化の基盤になるというふうに思いますので、そういった風土づくりを進めていきたいというふうに思います。

○平 進介議長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事 私からは、問いの2番目、旧長井小学校第一校舎についてお答え申し上げます。

まず、一番最初の玄関入り口の段差について、今後の対応はどうするのかについてお答えさせていただきます。

議員からもご案内がございましたが、長井市の歴史などの資料展示室やキッチン機能、一部部屋の二重サッシ、外構などの整備を除き、この4月27日のリニューアルオープン以来、6月9日までで1万4,700人ほどの方にご来場いただき、感謝申し上げます。

さて、旧長井小学校第一校舎は、昭和8年に新しく建てられた木造校舎でございます。幅93メートル、奥行き11メートル、最高の高さが12メートルとなる建物でございます。この建物を有効利用するため耐震診断を行った結果、構造耐震指標と言われるI_w値が、倒壊する可能性が高いと言われている0.7を大きく下回る0.094と著しく低いことがわかり、建物を維持

していくためには、ほかで一般的に行われているようないわゆる耐震工事だけでは対応できずに、このような大きな木造の建物では全国でもまれだと言われている免震工事を国の地方創生拠点整備交付金の認定を受け実施いたしまして、免震工事後は一応倒壊の可能性が低いとされるIw値1.26と飛躍的に高くなってございます。

免震工事につきましては、既存の建物の下に免震装置を設置して揺れを逃がす構造のため、通常は地面と接している建物が、今回の免震工事では地面と接することができないため、大きな段差ができてしまうことになってしまいました。そのため入場等に際してお手伝いが必要な方につきましては、現在のところ、この建物に勤務する指定管理者の職員が対応させていただいておりますが、関係法令等をクリアできる踏み台やスロープなどの設置ができるまでは、足腰の不自由な皆様へご不便をおかけすることになり、おわび申し上げる次第でございます。

また、4月27日以来、1万人を超える市内外の皆様にご入館いただいておりますが、ご高齢の方を中心に、玄関の段差が気になると、手すりをつけられないかというご意見も頂戴してございます。先ほども申し上げましたが、特殊な免震構造のため、揺れを逃す構造を阻害する踏み台などを設置することができないため、関係法令等を確認しながら、建築士等の専門家の意見も伺いながら、また、議員からもいただきましたご意見等も参考にさせていただき、早急に利用しやすい施設となるよう、手すりや踏み台、スロープなどの設置の対策を講じてまいりたいと思います。

2番目の体の不自由な方や車椅子の方などへの駐車場の案内や表記はどう考えているのかにつきましては、現在この建物の利用者の皆様には、敷地内に十分な駐車スペースを確保できないこと、あと、前庭のいわゆる慈愛の森と言われるところが一体となった建物であるため、

駐車場といたしましては、道の駅の駐車場や市役所旧第2庁舎西側駐車場、市役所南側の市民駐車場の利用をお願いしてございます。

また、長井の歴史などの展示資料室の整備や二重サッシなどの内装工事、飲食を提供するための調理機材の整備などを今年度予算に計上し、現在事業を進めておりますが、予想以上に敷地内の進入路の路面状態がよくないことなどから、足腰の不自由な方や車椅子の方などの誰もが利用しやすい進入路の整備や、小学校敷地との境界等の整備などの外構工事が必要であるため、来春に全ての工事が終わりました後に控えますグランドオープンに向けまして、9月定例会市議会にこういった関係予算のいわゆる外構工事を中心に補正予算を計上させていただきたく現在調査を進めているところでございます。

ご質問のありました体の不自由な方や車椅子の方への駐車場の案内や表記につきましては、現在のところ簡易的なもので敷地内での表示や各種PRの印刷物等で周知は行っておりますが、先ほど申し上げました外構工事の際に、入りやすく利用しやすい施設となるような整備を行い、あわせて、よりわかりやすい案内板等についても整備を検討してまいりたいと思っております。

3番目の外壁のスレート板は塗装したのか、交換したのか、交換したとすると、その理由は何かということですが、旧長井小学校第一校舎で昭和8年建設当時に外壁材として使用したのも現在の外壁板として使用しているものも、本質的にはセメントと、あと繊維、混合材料を水で混合して成形したスレートボードで、基本的には同じものでございます。

なお、改修工事に当たりましては、以前使用していたスレートボードでございますが、現在同じものは製造していないため入手不可能で、スレートボードの中でも極力以前のものでデザインや質感などが似ているフレキシブル板というものを新しい外壁材として使用いたしました。

昭和8年当時やその後の昭和の時代の改修で張りかえたものと、現在使用するものでは、先ほど言いましたセメント、繊維、混合材料ともに技術革新等によって性能や品質が同じものはございません。そのため、見た目やさわった感じなどの質感にも多少の違いは生じてきてしまいます。

また、スレートボード、先ほど言った昭和8年当時のもので同じでございますが、そのまま使用することはできず、必ず塗装しなければなりません。その時代の塗装材料の性能の違いや、いわゆる塗装の品質等の違いによっても見た目や質感に多少の違いは生じてまいるものでございます。

このたびの改修工事では、スレートボードに劣化の激しい箇所が多く見受けられ、そのままでは危険性があると判断されたことや、維持管理経費、いわゆる多少破損したものをそのまま使ってはその後の維持管理経費が非常にかかる。あと、新しいスレートボード、いわゆるフレキシブル板ですと、維持管理経費がほとんどかからないということからも、全ての外壁材を交換いたしましたものでございます。

また、塗装色の選定に当たりましては、昭和8年建設当時の資料やカラー写真が現在残っておりません。客観的資料だけでは詳細な色を特定することができませんでしたので、公益財団法人文化財建造物保存技術協会にご指導を仰ぎながら、現存する古い卒業アルバムなどを参考に、ご高齢の方を中心でございましたが、卒業生や歴代校長、教職員、PTA関係者、文化財保護協会などの多くの皆様からご意見を伺い、皆様の記憶に残る昭和8年当時にできる限り近いような独特の木造校舎の雰囲気を出す色を選定したものでございます。

次の4番目の項目の1階のくつろぎ・交流スペースについて、コーヒーや軽食の準備はできないのかでございますが、くつろぎ・交流ス

ペースは、市民の皆様や市外からの観光客の皆様など誰でもくつろぐことができ、世代を超えて気軽に交流できるスペースとして整備いたしましたものでございます。特に旧職員室のありましたくつろぎ・交流スペース1は、市民や市外からの観光客の皆様のくつろぎの場、小さなお子さんを持つ親子の遊びの場、中高生の学習の場など、さまざまな方に気軽に現在も利用していただいております。また、この場所には角野栄子先生の書籍110冊ほどや、長井市を紹介する冊子、指定管理者が児童書を中心にそろえた書籍、本市の姉妹都市、友好都市を紹介するコーナー、また子供たちが自由に遊べるけん玉や木製玩具などをそろえていたことから、これを目当てに来場される方も数多くいらっしゃるようでございます。

また、館内では、ギャラリー駐車場の展示や市の国際交流員やスポーツ国際交流員による英会話カフェを定期的に行っているほか、英語教室や音楽の練習、各種団体の会議など、多くの方に使用していただいておりますが、議員からもご提案ありましたが、飲食機能についての要望も多数あるところでございます。

現在は、くつろぎ・交流スペース1におきまして、2020東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン、タンザニア連邦共和国を市民の皆様などに広く知っていただくため、タンザニアでつくられたコーヒーや紅茶を無料で試飲していただいております。来場者の皆様から要望の多い飲食の提供につきましては、まずは指定管理者が保健所の営業許可を取得し、ドリンク類や個別包装のお菓子やパン類などの軽食といったものを提供できるように、シンクや冷蔵庫などの準備を急いでいるところでございます。

先ほども申し上げましたが、長井の歴史に関する展示資料室や各部屋の二重サッシ化、また9月市議会定例会で補正予算の計上を検討している進入路の整備などの外構工事などが完成す

る来春のグランドオープンに向けて、1階の一番東側のくつろぎ・交流スペース2の活用も視野に入れながら、食事や懐かしい学校給食などのメニューの検討も行い、キッチン機能の整備などをあわせて進めていきたいと考えてございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 それぞれご答弁ありがとうございました。

市長にお伺いいたします。ちょっと男女差別というわけではないんですが、一生懸命皆様の能力を引き出して、市民の生活のために職員の方に頑張ってもらっているというのはすごくわかりました。

それで、やはり管理職となると、やっぱり先ほど副市長がおっしゃったように、すごく会議が多いわけですよ。それで、やはりちょうど子育ての時代を超えて、今度は管理職になると、ちょうど親の介護。すごく男性の方も女性の方も大変だと思いますので、その辺、補佐とかに出ていただくということもありましたが、その所内でのそういう話し合いを設ける会議等は、しょっちゅうあると思いますが、皆さんでうまく話し合いができていけるのかなというところもちょっと心配なところも私はちょっと見えるので、その辺徹底してなさっているのかをお聞きしたいと思います。

○平 進介議長 内容重治市長。

○内容重治市長 お答えいたします。各課のほうで最低月1回、課内での会議を行っております。課長を中心に、主幹、補佐、主査、係長等々と打ち合わせをしております。その結果については、どういう課題があって、例えば6月どういう行事が予定されているとか、あと今後の取り組み方向等々について、書面で報告をいただいております。同じように、部門間での会議、課長、その部門の課長、主幹等々の会議などもございまして、そういったことを行いながら、

それぞれの担当の課ごとに、その課での年間の目標とか、こういうことまでやっていくんだと。その進捗状況とか、それを課の職員で共有していくと。そのトップに管理職が、課長を中心にして、意見交換を行いながらやっているというのが実情でございます。

お尋ねあった、いわゆる時間外の会議等々なんですけれども、以前、行革のときは、もう会議をできるだけ減らそうという話がありましたけれども、今は逆に、市民としっかりと意思疎通を図れるように必要なものはきちんとやっていると。市民の皆様も忙しいわけですから、なかなか日中集まれる人ばかりじゃないということで、夜間ということもあるということでございますから、そこのところは、夜間出たら、管理職の皆さんについては、補佐とか主査、係長にちょっと留守に、留守っていうか、代休ですね。そういったことも含めて、やはり働き方改革っていいですか、ワーク・アンド・ライフ・バランスをとるよというふうなことで徹底していきたいと思っておりますが、まだまだやっぱり時間外の方々が、管理職が時間外多いということでございますし、管理職は時間外手当って出ないんですよ。ですから、きょうも議員からありましたように、国会のほうでもいろいろ話題になっていきますし、国も働き方改革の中で管理職のオーバーワークということが課題になっておりますので、ぜひ、そうですね、いつの時期からするかはちょっと庁内で協議したいと思っておりますが、どのぐらい時間外やっているかと。管理職も、時間外は出さないけど、やった時間、1カ月どのぐらい時間外やっているかね。あと、代休はちゃんととれているとか、そういったことの調査もしながら、やはりしっかりと、管理職だけに過剰な時間外が偏らないようにしたいというふうに思います。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 市民生活向上のため

にも、やはり体を壊したら何もならないと私は思います。市民との交流も本当に考えていただいて、大変、住んでいる私たちにとってもいいことだと思いますが、その点健康にもやっぱり留意されないと、せっかく新しく入ってこられた方も、やはりいろんなことで悩むことが、どんな職場でも多いと思いますので、そういう、例えば心のケアなんか必要だと思いますけども、そういう点ではどのような対応をしているのか、市長にお伺いしたいと思います。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 この件については、ちょっと詳細については、総務課長のほうからとか、総務参事がいいか。総務課長ですよね。総務課長のほうから、メンタルヘルスとかいろんなことをやっていますので、お答えをさせていただきます。大丈夫、急だけど。

○平 進介議長 近藤智規総務課長。

○近藤智規総務課長 ただいまの鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

メンタル的なところで、例えばカウンセリングということではないですけど、そういった話を聞いたりする機会でございますが、その働き方改革によりまして、さまざまその法改正に合わせた措置ということで、先ほど副市長のほうからも、ある程度この長時間の時間外のあったものにつきましては、産業医によります面談などの制度も出てきておりますので、そのようなものをフルに活用しながら、職員のそのメンタルのチェックといいますか、そのような管理にも十分配慮していきたいと考えているところでございます。

(「ストレスチェック」と呼ぶ者あり)

○近藤智規総務課長 そうです、失礼しました。それと、ストレスチェックでございますね。失礼しました。

毎年ですけども、健康診断時に、これももう義務づけられておりまして、あわせてその現在

の自分のその状況どうかっていう書式がございまして、それを自分で一人一人書きながらそれを提出して、後からそれについて結果がそれぞれ個人個人に参りますので、それによって、場合によっては産業医の面談を受けるとか、そのようなふうな仕組みができておるところでございます。

(「名称。ストレスチェック」と呼ぶ者あり)

○近藤智規総務課長 ストレスチェックという名称でやっております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ありがとうございます。ぜひそれを続けていただいて、より働きやすい職場にしていきたいと思っております。

旧長井小学校第一校舎についてお伺いいたしますが、時間がないようなので、希望だけちょっと言わせていただきます。

これから外構工事に入ると先ほど参事がおっしゃられましたので、ぜひ、特に駐車場なんかは本当は道路を挟んでほしくないなと私的には思っておりますので、なかなか難しいかもしれませんが、いろんな考慮をさせていただいて、多くの方に利用していただけるような外構にしていきたいと思っております。

これからまだまだ中も変わっていくと思っておりますので、ぜひ皆さんが使いやすいような施設にしていければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございます。

勝見英一朗議員の質問

○平 進介議長 次に、順位4番、議席番号2番、勝見英一朗議員。

(2番勝見英一朗議員登壇)